

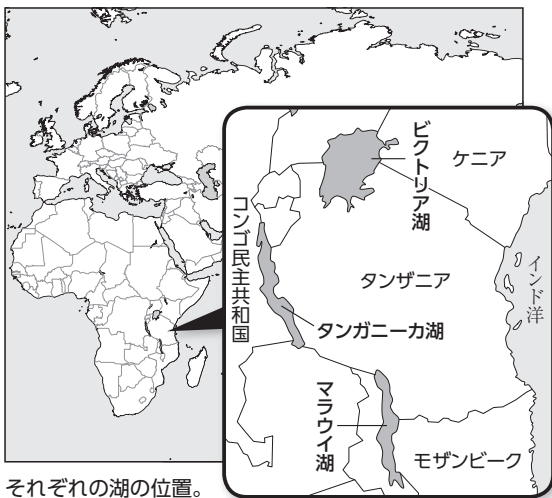
アフリカのシーラカンス (左) とインドネシアシーラカンス (右) の向かいあわせの展示です。2種類のシーラカンスが一緒に見られるのは「アクアマリンふくしま」だけ。標本には返却期限があるので、ご覧になりたい方はおはやめに。

2010年にインドネシアのビアック島で調査した時のメンバー。安部義孝館長(左)、僕(中央)、山内信弥君(右)、ほか現地スタッフ。新しい場所での調査で、5匹のシーラカンスを見つけることに成功しました。



## アフリカの湖

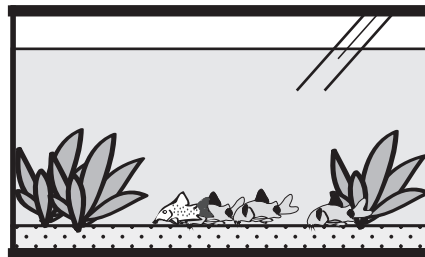
アフリカには大きな湖が3つあります。ビクトリア湖、タンガニーカ湖とマラウイ湖です。日本で売られているアフリカの熱帯魚は、主にタンガニーカ湖とマラウイ湖から来ています。タンガニーカ湖の広さは世界7位で琵琶湖の約50倍！最大水深にいたっては1470メートルでアフリカー。日本で一番深い湖は田沢湖の423メートルですからびっくりですね。もう一つのマラウイ湖はというと、広さはタンガニーカ湖の90%ほどです。そして、タンガニーカ湖の2倍の広さを持つビクトリア湖はアフリカで一番大きな湖で固有の生態系を持っていましたが、その多く



が絶滅したと考えられています。人間が、食用のために2メートルを超す外来種のナイルパーチという肉食魚を放流したために、生態系がこわれてしまったのです。

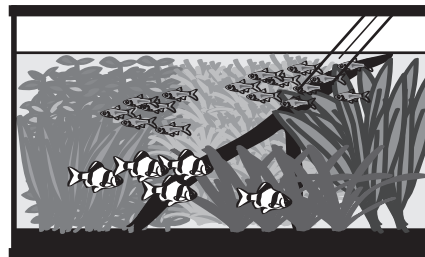
## ●その当時こだわったレイアウトの例

### 南米の水槽



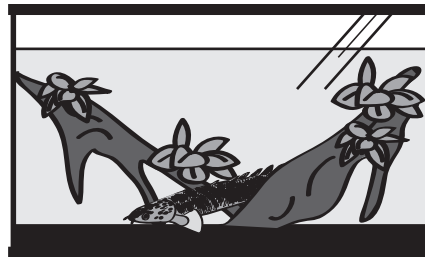
南米のコリドラスはアマゾン川の支流などの水のきれいなところにすんでいます。ナマズの仲間で口元に生えたヒゲで砂のなかの餌をさがします。このような魚のレイアウトには、細かめの砂を敷き、なるべく広めの空間をつくるようにしました。

### 東南アジアの水槽



東南アジアのラスボラやスマトラという熱帯魚はオレンジ色や黄色い体をしており、水草の緑色によくあいます。日本では、いろいろな種類の東南アジア産の水草が手に入るので、たくさん植えました。

### アフリカの水槽



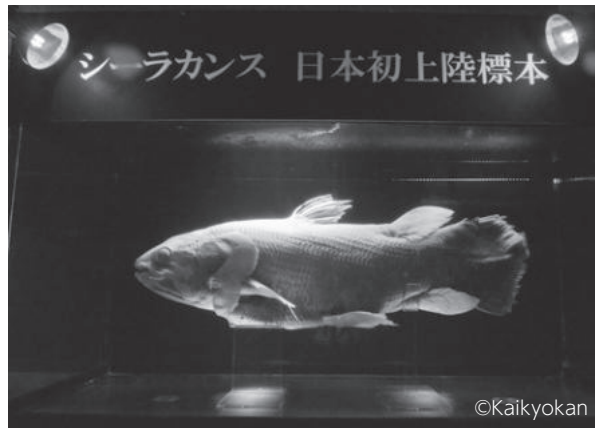
アフリカにいるポリプテルスは夜行性で性格があらいため、ほかの魚とはあまり同居ができません。昼間にかくれることができるように流木をたくさん入れ、流木につくアマビアスという水草を入れました。今とちがいで、昔は高価だったので少ししか入れられませんでした。

## なぜ、アフリカから遠くはなれたフランスから？

シーラカンスは、アフリカのマダガスカル  
の少し北にあるコモロに多く生息しています  
が、このコモロは19世紀から1975年まで  
フランス領とされてきました。その時代に獲  
れたシーラカンスが、1967年に読売新聞  
社に贈られたのです。そのような経緯から、  
読売新聞社の系列となる「よみうりランド海  
水族館」に展示されることになりました。  
これがシーラカンスを日本で展示紹介する最  
初でした。

なお、その当時から、コモロに多くのシー  
ラカンスが生息していることが知られてい  
て、日本の調査隊が1981年にはじめて

シーラカンスを獲ったのも、このコモロでし  
た（日本最初のこのシーラカンス学術調査隊  
が結成されたのは1972年です）。



1967年、日本にはじめてやってきたシーラカンスの標本。  
(株式会社よみうりランド所有、下関市立しものせき水族館にて展示中)

## 夢の水族館勤務

中学生になると、みなさんもそうでしょうが、よく「将来は何になりたいの？」と聞か  
れるようになります。

僕は、将来は水族館につとめたい！としました。でも、本気で水族館に行きたいと思っ  
ようになったのは、高校生のころです。大学受験の準備と進路を本格的に考えなくては  
いけなくなったころ、父に聞かれました。

「おまえ、将来はどうするんだ？」

「僕は大学で魚の勉強したい」

「魚の勉強してどうするんだ？」

「水族館で働きたい」

「本気か？ 水族館で働くなんでできるのか？ だいたいどうすれば水族館で働けるのか  
知っているのか？」

「それは……」

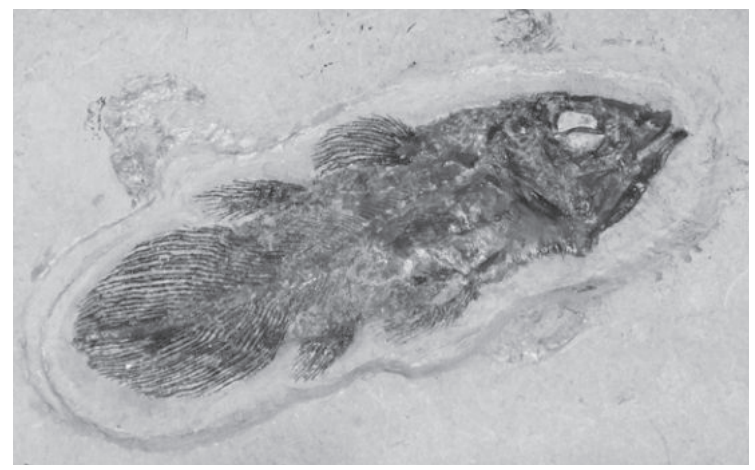
言葉につまってしまいました。実際、どうすれば水族館で働けるのかわからなかったか  
らです。とりあえず、大学の水産学部に行けば少しは近づけるようになるのかな、という



## 生息地がはなれているのに、 ちがいが発見できない!?

4億年前に地球上にはじめて現れたとされるシーラカンスは、130種類以上いたとされますが、現在も生息が確認されているのはラティメリアという仲間のみ。アフリカのシーラカンスとインドネシアシーラカンスの2種は、遺伝子上の分類はされていますが、見た目でちがいはまだはっきりとはわかっていません。

この2種類がわかれたのは3500万年前とされています。人とチンパンジーがわかれたのが500万年前と考えられているので、それよりもずっと古いシーラカンスがそっくりなのは不思議ですね。



中生代白亜紀のシーラカンスの化石。



## 企画展「ザ・シーラカンス」の立ちあげ

安部館長の「シーラカンス調査プロジェクト」は、まず情報収集からはじまりました。その方法もユニークで、行動的です。雑誌や本、インターネットを通じて得られる情報だけでは満足しません。

「情報収集のために、世界のシーラカンス研究者を集めて国際シンポジウムを開こう。それとシーラカンスに関する企画展を開催しよう」

僕は、その言葉にあおられるように企画展の開催担当になりました。タイトルは、「ザ・シーラカンス」。これからの調査研究活動につながる企画展にしようということになりました。

そうなる、息の長い研究活動にいくためにも、起爆剤になる目玉が必要です。何にしようか考えました。写真や文字の解説では物たりません。「アクアマリンふくしま」に来てくれる人に、強い印象を持ってもらうには「現物」が一番です。

しかし、そこまでは思いついても、実際に「アクアマリンふくしま」にそれを持ってこられるのか？腕を組んで考えこんでしまいました。

「そうだ。南アフリカのローズ大学に知り合いがいるから、連絡をとってみるよ」

であるJ・L・B・スミス博士が見たのだなあと思うと、何かタイムスリップして建物のわきから博士が出てきそうな気がします。さらに博物館の入り口には、コートネイ||ラティマーさんの大きな肖像画がかざってありました。そのラティマーさんとも、この国際会議で会うことができました。

会議の特別ゲストとして招待されたラティマーさんは、すでに96歳になっていましたが、お元気な様子でした。会議に参加した人たちは、みんな大興奮。最初のウエルカムパーティーにラティマーさんが現れた時には、拍手喝采です。もはや伝説上の人物とも言えるラティマーさんに、直接会うことができなんて思いもよらないことで、大感激でした。さすがに直接話をすることはできませんでしたが、わすれられない思い出です。

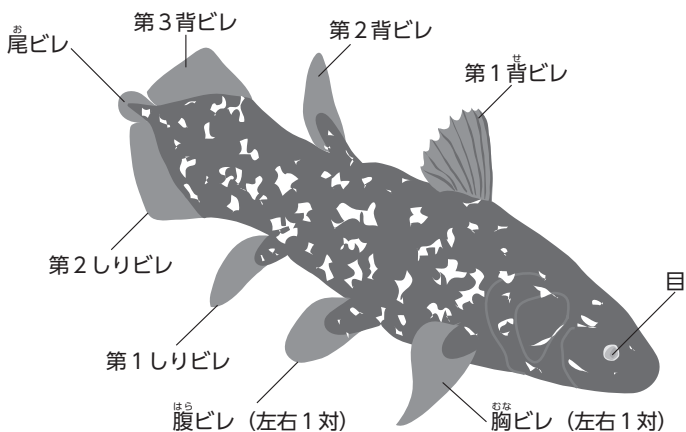
もう一人、シーラカンスのことを語る上では外すことのできない人物がいます。ハンス・フリック博士、この人にも会えました。フリック博士は潜水艇をつかって、はじめて生きたシーラカンスを水中で観察した研究者です。どうしてもシーラカンスを自分の目で見てみたいと、当時、だれも考えつかなかった潜水艇での調査を思いついたのです。しかもそのためにもずから考案した潜水艇をつくったというのですから、その情熱は大変なもの。

フリック博士のこの情熱により、シーラカンスの生態がいろいろとわかることになりました。代表的なことは、ヒレの役割。シーラカンスのヒレは、ふつうの魚とちがって根元が太い棒

のようになっています、その先にヒレがついています。

6枚ある太いヒレのうち、胸ビレと腹ビレの4枚は、四足動物の前足とうしろ足にあたりと考えられています。だから、シーラカンスが発見された最初のころは、この4枚のヒレをつかって海底を歩いていると考える研究者もいたほどです。ところが、実際にはこの6枚のヒレをねじるようにふることで泳いでいたのです。ただし「泳ぐ」と言っても、一般的な魚のようにすいすいと進むのではなく、海のなかのゆつくりとした流れに逆らって、一つの場所にとどまるためにヒレを動かしています。そして、夜行性である彼らは、昼間は海底の洞窟にかくれているということもわかりました。

フリック博士は、潜水艇による調査のむずかしさについてもいろいろと教えてくれました。そのなかで、僕たちがROVでの調査を検討している



※第3背ビレ、尾ビレ、第2しりビレをあわせて尾ビレとする説もあります。